

小規模・高齢化集落支援モデル事業の取組事例

いわいずみちょう
岩手県岩泉町（大川地区集落連携促進協議会）

1. 協議会の概要

（平成21年4月作成）

協議会名		大川地区集落連携促進協議会	
構成員	市町村名	岩手県下閉伊郡岩泉町	
	小規模・高齢化集落名	おおかわしもちょう 大川下町集落	5名
	協定集落名	おおかわひかげ 大川日蔭集落	9名
	その他構成員		
対象農用地面積 1.5ha		田 1.5ha	畑 — 草地等 —
交付金額(総事業費) 17.0万円		水路、農道等保全管理支援事業 支援活動推進事業	15.0万円 2.0万円

2. 取組の概要

■地域の概要

岩泉町は、岩手県の東部に位置し、東側は太平洋に面し、3方を1,000m級の高山に囲まれた林野率が高い耕地の少ない山間地域であり、山地を利用した畜産の盛んな地域です。町の中心部には日本3大洞窟である「龍泉洞」があり、観光資源も有している町です。

現在、町では14協定が草地・採草放牧地485haを含む506haで中山間地域等直接支払事業を実施しており、農地・水・環境保全向上対策事業についても、3集落が取り組んでいます。

1 大川下町地区について

大川下町地区は、岩泉町の西部に位置した谷あいの集落（農家戸数8戸、高齢化率80%）であり、町の中心部には谷間を縫うように流れる小本川の支流である大川沿いの国道と県道を経由します。

地理的条件は、耕作に適した農用地が少ない厳しい地形ですが、当事業の実施区域は、集落で唯一団地的なまとまりのある田です。

この田を耕作する農家は、75歳を超える高齢者農家5戸です。5戸のうち、後継者のいない農家が2戸、後継者がいるが会社勤めのため、平日の就農が困難な農家が3戸で、恒常的に高齢者が耕作している状況です。

2 大川日蔭集落について

大川日蔭集落の農業は、主に畜産と稲作です。集落の大半の田は一カ所に集中しており、水稻と飼料作物が栽培されています。平成13年度から中山間地域等直接支払交付金事業を実施しており、協定に認定農業者が

2名参加、人数は多くありませんが、大川下町集落を支援できる協定集落です。

(大川日蔭集落協定の概要)

協定締結面積 田2.3ha(急傾斜100%)交付金額 48万円 協定参加者9名

■活動に至った経緯

当該農用地は中山間地域等直接支払事業の対象農用地となっていました。平成12年度の事業開始時及び平成17年度の次期対策移行時には自己完結型の営農をしており、共同作業による農作業や作業環境整備は必要とせず、自分の農地は自分で管理し、個々の考えに従って営農するとの考え方が多くを占め、集落内がまとまらず事業実施できなかつた経緯がありました。しかし、当該モデル事業実施の話し合いの中で、大川日蔭集落協定の代表者が中山間地域等直接支払事業における協定の活動状況や共同活動の効果などを紹介し、当該モデル事業を実施した場合は可能な限り支援することとなりました。

また、大川下町集落の農業者自身の高齢化が一段と進んだことや後継者対策を考える必要性があることから、「農地は働きやすい環境に整備して後継者へ引き継ぐ必要がある。」との考えで両集落が一致し、事業に取り組むこととなりました。

■保全管理活動の概要

水漏れが多い導水路を重点に補修・改修することとしており、平成20年度の取組は、改修等に向けての資材購入、計画作成のための測量、導水路周辺の刈り払いと清掃を行いました。

平成21年度の活動としては定期的な水路・農道の草刈りに加えて、資材を用いた導水路の改修・補修を140m程実施する計画です。

■活動に取り組んだ後の効果

事業の取組後は、話し合いの場も多くなり、従前から行っていた個々の活動では農用地や水路・農道整備も進まないの、共同作業によって進めようとする意識の変化が見え始め、今後は、中山間地域等直接支払事業にも参加する意向を持って活動しています。

今回の活動に取り組んだことにより、耕作放棄地の発生を防止する体制が強化され、現段階では、集落の自立に向けてスタート地点についての状況ですが、共同活動への意識が高まってきており、今後も大川日蔭集落の協力を得ながら、農地・水路・農道等の保全管理活動を展開していきます。



農地の風景



水路草刈り作業



協議会で打合せ



水路清掃作業